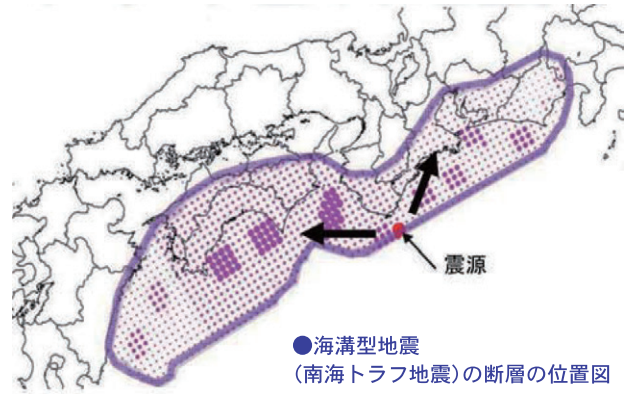


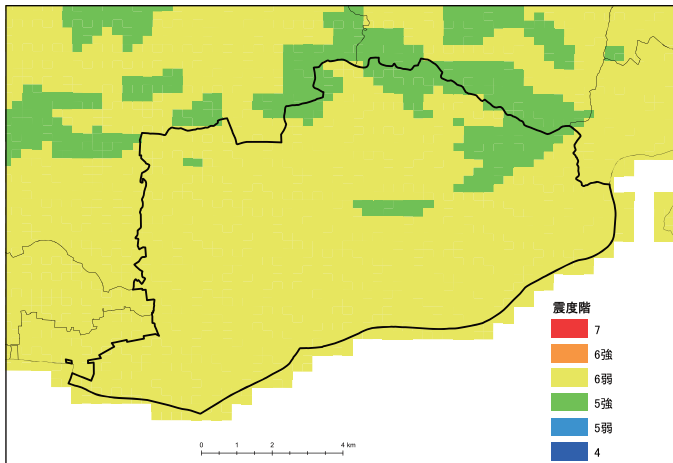
# 各務原市と南海トラフ地震

東海地震、東南海地震、南海地震が連動して発生すると、強く長い揺れや大津波によって、広い範囲で甚大な被害が予測されています。東日本大震災の発生を受けて、岐阜県ではこれら南海トラフで発生する巨大地震について地震被害想定調査を行いました。その調査結果では、各務原市は**震度6弱**の可能性があるとされています。

岐阜県 東海・東南海・南海地震等被害想定調査（平成25年2月）  
【南海トラフ巨大地震 M9.0】紀伊半島沖を震源とする。

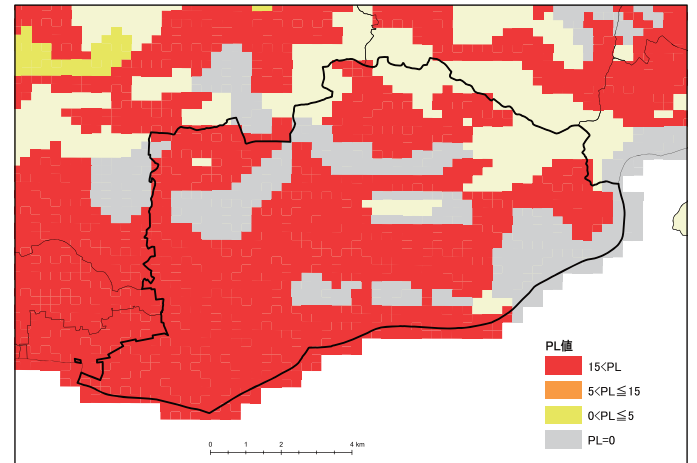


## ●震度の予測



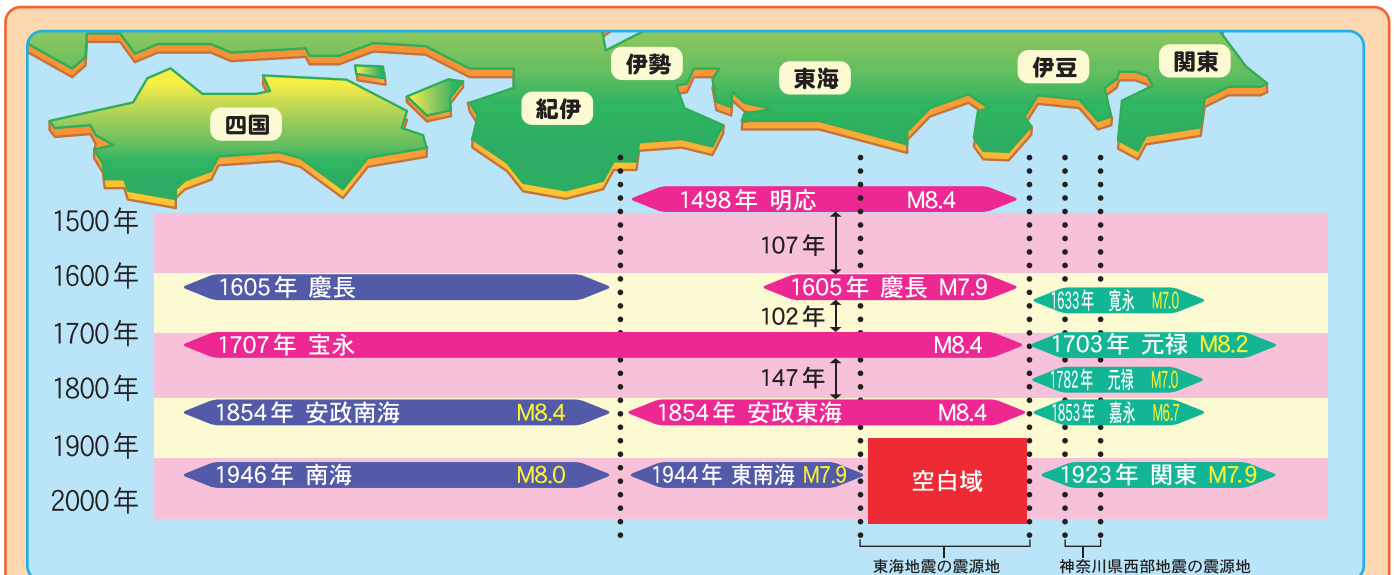
各務原市は最大で**震度6弱**と予測されています

## ●液状化の予測



薄クリーム色は粘土質の地盤や岩盤で液状化しない場所です

建物被害		火災(焼失棟数)	死者	負傷者	避難者
揺れ	全壊 661棟 半壊 4,365棟	19棟 ※冬の午後6時発生	40人 ※冬の午前5時発生	917人 ※冬の午前5時発生	14,487人
液状化	2,347棟				



東海地震、東南海地震、南海地震は、海のプレートが陸のプレートに沈み込み、耐え切れなくなった陸のプレートが跳ね上がって起こる「**海溝型地震**」です（東日本大震災もこのタイプの地震です）。

3つの巨大地震は、上図に示すように約100～150年周期で、同時あるいは時間的に接近して起こるケースが多いことが分かっています。

国は、南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率を70%～80%と公表しています（平成30年1月1日基準）。また、各務原市はこれらの地震で大きな被害が予測される地域として、「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されています。